

シンポジウム「近年の豪雨と気候変動、今後の適応策」の開催報告

西日本豪雨から1年を経て

平成30年7月豪雨（西日本豪雨）は、九州から中国、四国、近畿、中部といった広範囲に、深刻な水土砂災害の被害をもたらした。気象庁は、梅雨前線の停滞による異常気象であるが、地球温暖化に伴う水蒸気量の増加が影響していると見解を示した。

1年がたった今、文部科学省「気候変動適応技術社会実装プログラム（SI-CAT）」の一環として、岡山市内でシンポジウムを開催した（2019年8月20日午後、岡山国際交流センター）。西日本豪雨のみならず、九州北部豪雨等の近年の豪雨災害が気候変動と関連すること、さらに今後気候変動が進行するなかで、従来の防災対策に追加する気候変動への適応策が必要であることを、広く共有することが狙いであった。事前申込を断らざるを得ないほどの盛会となり、行政職員、研究者、NPO・市民等、100名を超える参加者を得た。

白井信雄（山陽学園大学）によるWBモニターアンケート調査結果、前野詩朗教授（岡山大学）の岡山での被害実態の調査とシミュレーション結果、中北英一教授（京都大学）の豪雨への気候変動の寄与度の分析結果、小松利光名誉教授（九州大学）の九州北部豪雨の分析結果と理論枠組みの提案、田中充教授（法政大学）の気候変動適応策の考え方と政策の説明、中井佳絵（ボウジョレーヌプロジェクト）の広島での自主防災支援活動の紹介といった、たくさんの事項の報告を行った。

豪雨の原因と今後の対策

シンポジウムの要点を3点にまとめる。第1に、これまでにない豪雨を想定外で不可避であったとするのではなく、避難情報・防災情報等の発令にも関わらず逃げ遅れで多くの人命が失われたこと、浸水ハザードマップが示されていないダム直下流で大きな被害が発生したこと等を踏まえて、既存対策の点検と強化、再構築が必要となる。特に、中小河川では対策が不十分である。

第2に、気候変動のさらなる進展を踏まえて、河川の整備目標の引き上げによる防御とともに、施設能力を超える洪水に対する減災（影響最小化）、さらには土地利用や立地誘導による被害の受けやすさの転換が必要となる。真備地区でいえば、事前のハード対策、合流点の付け替え、バックウォーターが及ぶ支川の堤防強化等とともに、施設能力を上回る超過洪水に対する対応、被災するまでのリードタイムの確保等が必要となる。

第3に、公助で行うべきインフラ対策を進める一方で、自助・共助による対策の強化が不可欠となる。夜間での避難所への緊急避難の困難を想定し、屋根上等の緊急の自主避難場所の確保、ライフジャケット等の用意等、各自できることがある。また、避難スイッチを押すための地域住民による自主防災組織の立ち上げが必要である。既に気候変動が進行するなかで豪雨災害がまた起こり得る。長期的な視点からの対策の追加とともに、緊急的な当面の対策の徹底が必要となる。

災害があるが備えがある地域

岡山のよい所は「災害のないこと」、悪いところは「（災害がないために必要がなく）助け合いがないこと」だという。しかし、深刻な災害が起こった。これからは「岡山でも災害があるが、災害への備えがあるいい所である」と言えるようになることが地域づくりの目標となる。

岡山に限らず、地球規模の気候変動の進行は避けられない。気候変動リスク時代を生きる一人ひとりに、緩和策の最大限の実施とともに、適応への主体的な取り組みが求められる。

シンポジウム

「近年の豪雨と気候変動、今後の適応策」

■趣旨

西日本豪雨、九州北部豪雨等の近年の豪雨災害が気候変動（地球温暖化）と関連すること、さらに今後に気候変動が進行するなかで、従来の防災対策に追加する気候変動への適応策が必要であることを、広く共有する機会として、シンポジウムを開催した

■主催等

主催： 山陽学園大学・法政大学・岡山大学

共催： 岡山県環境保全事業団

後援： 岡山県・岡山市・倉敷市・中国四国地方環境事務所・山陽新聞
・RSK山陽放送

■参加者

110名（登壇者、スタッフを除く）

■日時

2019年8月20日（火）13：00開場、13：30開会、16：30閉会

■場所

岡山国際交流センター2階 国際会議場

シンポジウム

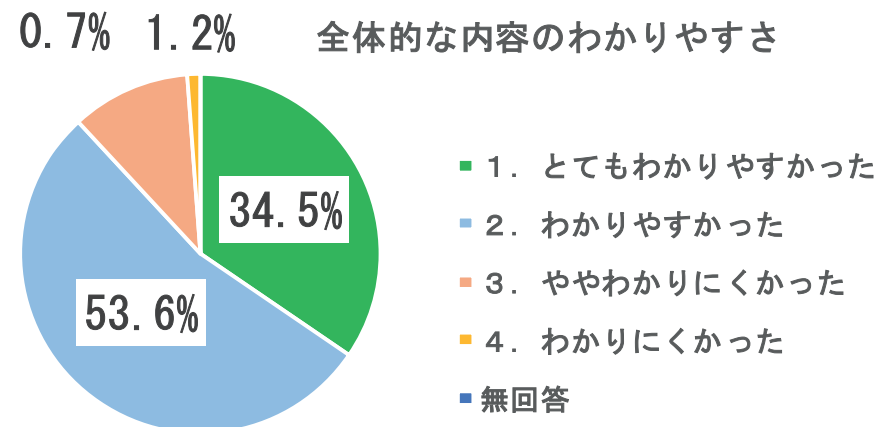
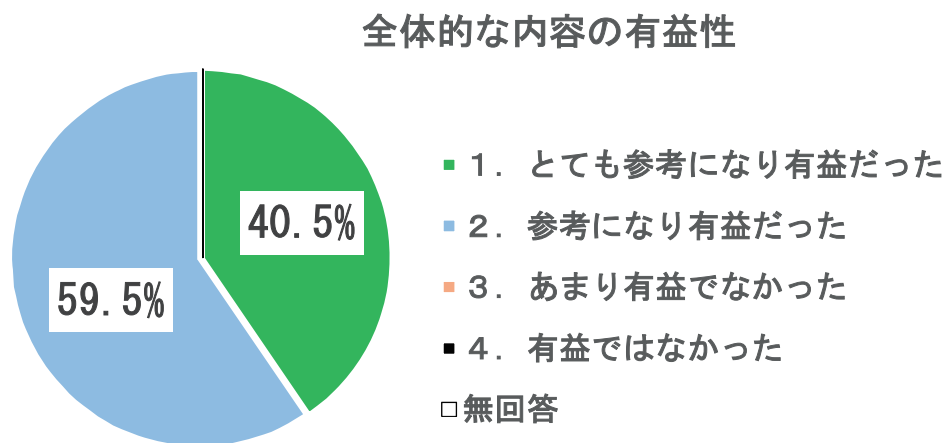
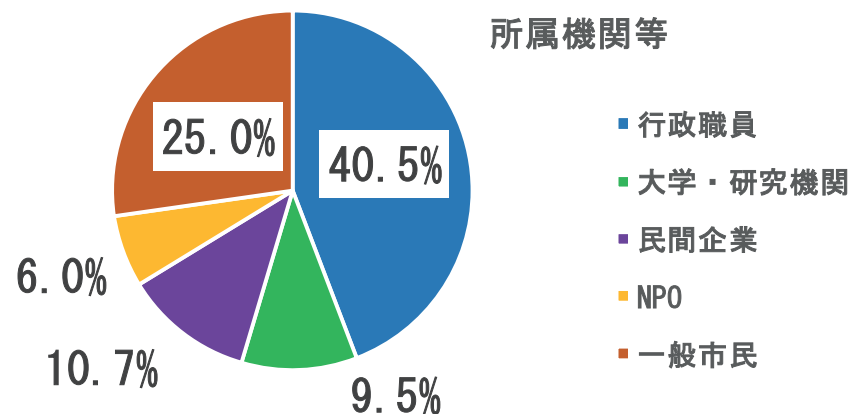
「近年の豪雨と気候変動、今後の適応策」

■構成

開 会		13:30
趣旨説明と調査報告	豪雨と気候変動（山陽学園大学 白井信雄）	13:30～13:50
基調報告	西日本豪雨による岡山の被害と要因（岡山大学 前野詩朗）	13:50～14:20
問題提起	豪雨への気候変動影響（京都大学 中北英一）	14:20～14:40
	近年の豪雨災害の特徴と緊急的適応策（九州大学 小松利光）	14:40～15:00
	地域からの気候変動への適応策（法政大学 田中充）	15:00～15:20
休 憩		15:20～15:30
パネルディスカッション及び会場との対話		15:30～16:30
	コーディネイター 白井信雄	
	パネリスト 前野詩朗、中北英一、小松利光、中井佳絵（総合司会兼務）	
	総括コメント 田中充	
閉 会		16:30
	総合司会： 中井佳絵（ボウジョレーヌ プロジェクト）	

シンポジウム 「近年の豪雨と気候変動、今後の適応策」

■参加者アンケート結果 (N=82)

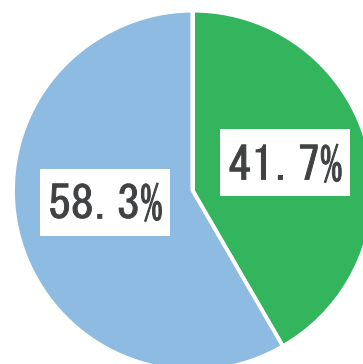


シンポジウム

「近年の豪雨と気候変動、今後の適応策」

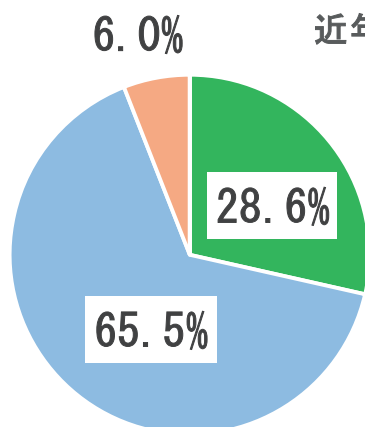
■参加者アンケート結果 (N=82)

近年の豪雨の状況について



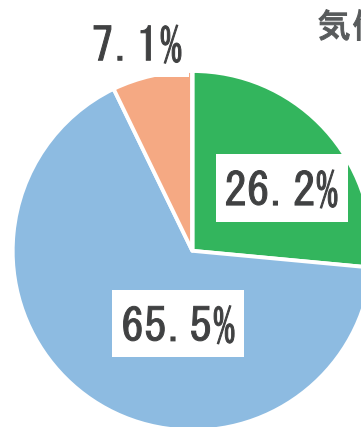
- 1. とても理解が深まった
- 2. 理解が深まった
- 3. あまり理解が深まらなかった
- 4. 理解が深まらなかった
- 無回答

近年の豪雨と気候変動の関係について



- 1. とても理解が深まった
- 2. 理解が深まった
- 3. あまり理解が深まらなかった
- 4. 理解が深まらなかった
- 無回答

気候変動への対策について



- 1. とても理解が深まった
- 2. 理解が深まった
- 3. あまり理解が深まらなかった
- 4. 理解が深まらなかった
- 無回答